

イノベーション・エンジン (IE) によるCVC支援からの考察

2024年12月3日

イノベーション・エンジン株式会社

何故、今CVCか？



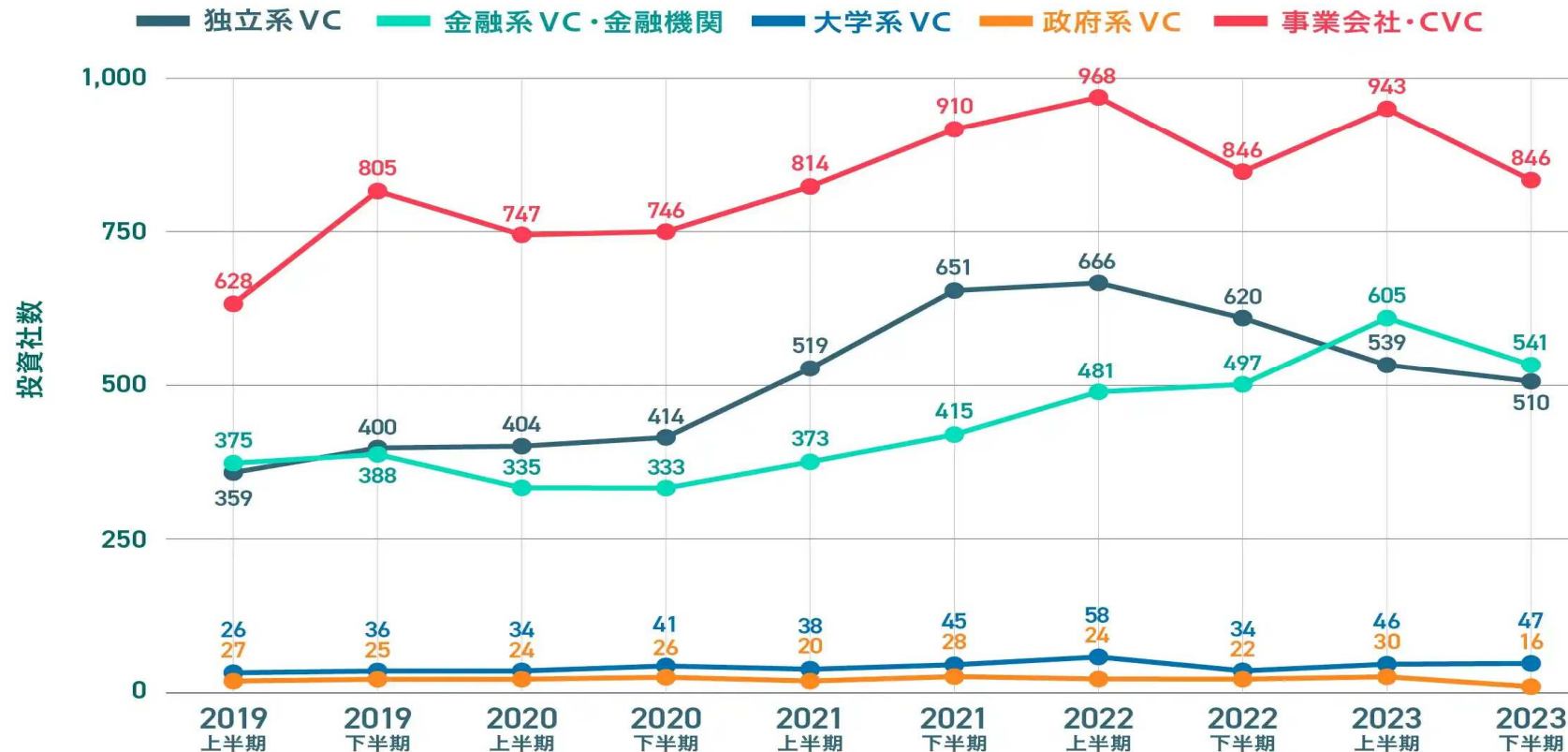
- ◆ 既存市場の縮小（技術革新、人口減少等）
➔ 成長市場へのシフト
- ◆ 余剰資金のオルタナティブ投資
- ◆ 株式市場からのプレッシャー
（資本効率改善等）

CVC数は拡大中



◎ 属性別の投資社数推移

STARTUP DB



注1: 2024年1月8日時点 注2: 投資実行日不詳の場合は、発表日時に基づく 注3: 一部、融資や社債での調達、関連会社からの調達を含む 注4: 今後、各社の登記簿情報の更新にあわせ、合計資金調達金額・資金調達実施社数が増加する可能性がある。出所: STARTUP DB

CVCファンド投資事業のメリット



◆CVC投資の3つのメリット

- ①投資先企業との事業シナジー、新しい事業分野の発掘や既存事業の強化
- ②投資先企業が成長することによるキャピタルゲイン
- ③余裕資産の有効活用によるIR効果

CVCのターゲット領域



IEによるCVCの成功事例①



【大手商社】

- ・少額出資を通じて、新規事業創出を目論み、無線通信開発のA社に出資を行った。A社製品の販売代理、製造受託で協業中
- ・A社は近日中に米国市場への上場を予定しており、同社には大きなキャピタルゲインが期待される

IEによるCVCの成功事例②



【インフラ企業】

- 新たな利益創出を目的とし、IoTセンサー開発企業B社への出資を行った
- B社を活用し、同社の社内利用のみならず地域へのサービスオプションを拡充させる

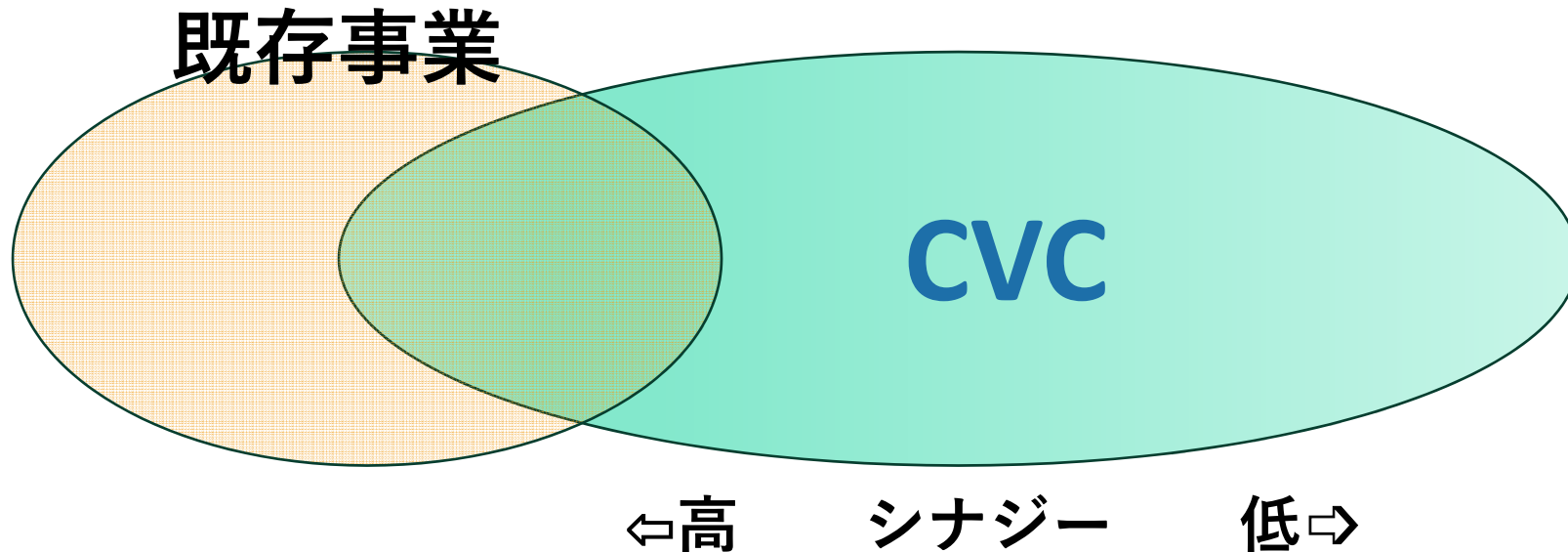
IEによるCVCの成功事例③



【建設企業】

- ・環境事業へのシフト、特に都市・地域への密着に注力している中で、ベンチャー出資を活用
- ・次世代の再エネ開発企業であるC社に出資し、自社商品の付加価値化、差別化を狙い、協業中

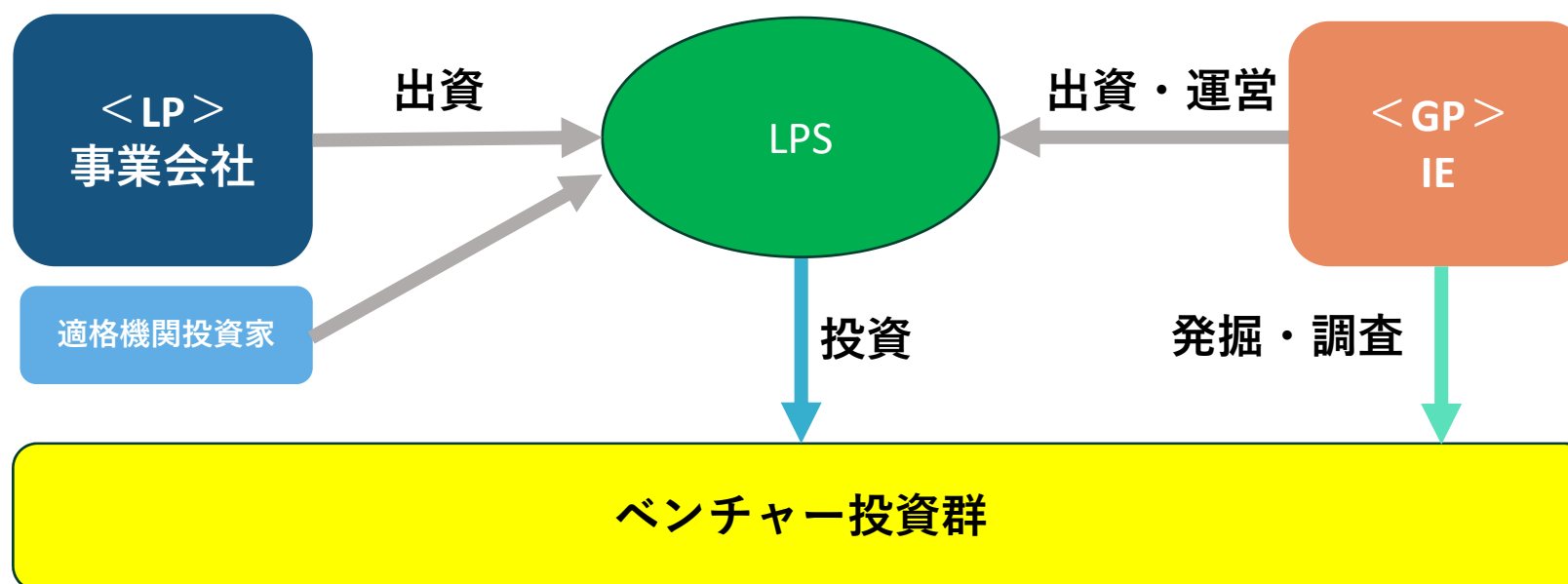
CVC成功のポイント



- 出資領域の選定・意味付け（ポートフォリオ）
- 財務リターンの確保（CVC持続性）
- 専門部署の設置（意思決定の独立性）

CVC投資の枠組み(LPS)

ファンドモデル(投資事業有限責任組合:LPS)

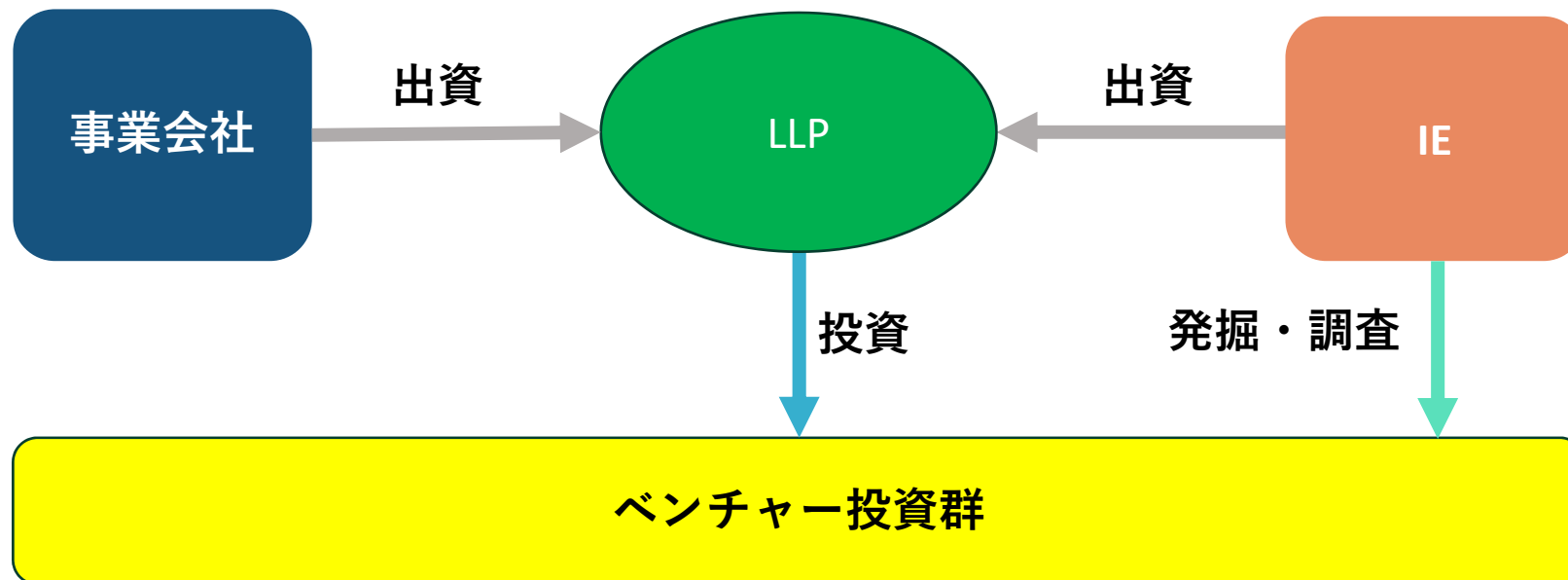


【ポイント】

- ・基本的にGPによる投資意思決定
- ・GP、LPをどうするかは設計可能

CVC投資の枠組み(LLP)

ファンドモデル(有限責任事業組合:LLP)



【ポイント】

- ・事業会社、IEともに業務執行者
- ・利益分配等、設計が自由

最後に



CVCあるある・・・な、ご質問

Q: 事業部の理解を得られるか？

既存事業のイノベーションを担うのが、
スタートアップであり、高い視点での判断
が必要です。

Q: 出資なしで業務提携でいいのでは？

スタートアップにとって資金は生命線
です

本日は、貴重なお時間をいただき
誠にありがとうございました

イノベーション・エンジン株式会社

代表取締役

佐野睦典 (sano@innovation-engine.co.jp)

ベンチャー・パートナー

清常浩介 (kiyotsune@innovation-engine.co.jp)